

令和7年1月23日

日立理科クラブ通信



No. 236

日立理科クラブ

「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立会瀬小学校

今回の「理科室のおじさんを訪ねて」は、会瀬小学校（鈴木美知子校長）の宮下正彦（みやした まさひこ）さんです。

宮下さんは山形県米沢市の出身です。米沢藩の藩主だった上杉鷹山は、「代表的日本人」としてもとても有名ですが、宮下さんも尊敬しているそうです。小学生の頃は、近くの山を訪れて山菜採りや、キノコ狩りをしました。また、田植えや稲刈りの手伝いもよくしました。

理科クラブに入る前は、日立製作所日立工場で機械の設計などをしました。自分で設計した圧延機の試運転にも立ち会ったことがあるそうで、このときはとてもうれしかったそうです。

理科室のおじさんになって、「理科室おじさん」と呼ばれています。児童にとっても親しまれています。理科の実験や休み時間に、子どもたちと話しをすることを楽しみにしています。特に、子どもたちから「これはどういうことですか？なぜこうなるのですか？」と質問してもらえ、ことは生きがいを感じるそうです。

理科室では、実験の準備や試しの実験などを行って、安全にそしてうまくいくようにしています。また、1年生を対象に、昼休みの工作教室や実験を見せて理科のおもしろさを伝えています。

理科室の実験台を見ると、流しのところにフタがしてありました。実験台を広く使えるようにして、学習しやすいようにと宮下さんが工夫したものです。

児童に伝えたいのは、①不思議だと思う気持ちを常に持つこと、②実験を行ったときになぜそうなるのか疑問を持ち、それを解決しようとすることです。実験中に、一人一人に話しかけるようにして、思いを伝えているそうです。

最後に、会瀬小学校のよさを聞きました。会瀬地区で行われている浜の炊き上げや秋の文化祭など地域との交流が盛んであることを話してくれました。会瀬小学校の児童は、学校だけではなく地域でもいろいろな体験をして成長しています。会瀬小学校の卒業生には、日立駅や日立市役所を設計した妹島和世さんがいることも誇りだと話してくれました。

今回の訪問ではじめて気付いたのですが、助川小学校の五代桜のクローン（後継樹）が植えられていました。中学生が共通の話題を持ってそうです。



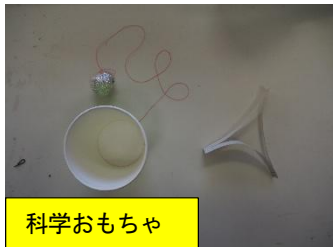
「理科室のおじさん」宮下正彦さん



科学展示



使いやすい実験台



科学おもちゃ



助川小五代桜の後継樹